資料のデジタル化・保管・流通・活用等の実践紹介

アーカイブ Data Report　NO.112

（2021 年 4 月 13 日）

〒500-8813　岐阜県岐阜市明徳町 10 番地　杉山ビル 5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com　URL:https://npo-nak.com
NPO 日本アーカイブ協会・岐阜女子大学*・沖縄女子短期大学・学習システム研究会
（＊岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻・研究所、沖縄サテライト校）

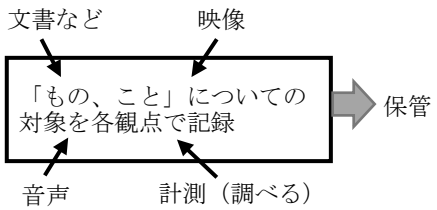
デジタルアーカイブによる課題解決に向けた組織的な資料の収集・記録・保管

櫟　彩見、後藤　忠彦（岐阜女子大学）

１．組織的なデジタルアーカイブ化の必要性

デジタルアーカイブの利活用の目的はさまざまであるが、その一つに各分野における課題解決の手段とし用いられるケースがある。各分野で実際にデジタルアーカイブを行うには、基礎となるデータの組織的な収集・記録・保管が必要となる。

特に高校生、大学生などのデジタルアーカイブにこれから携わる人は、目的に近い一つの事項についてデータを収集・記録する場合が多い。これも重要ではあるが、現在発生している課題解決を行うには、さまざまな視点から「もの、こと」を事前に調べておき、記録・保管することも忘れてはならない。例えば教育実践、文化活動、芸能、企業、行政、農業、観光、さらに研究活動などのあらゆる分野の「もの、こと」には、下記の関連資料が存在していると考えられる。これらの資料や活動記録などを収集・記録してデジタル化し、保管する。



① 文章など

図書、古文書、報告書やメモなどの各種書類、図、絵、グラフ、数値データ

② 映像

ビデオ（動画）、静止画（写真）、作業、活動などの記録、文化財など

③ 音声

コミュニケーションの状況、オーラルヒストリーなどの話、音楽、自然の音など）

④ 計測（調べる）

時間、気温、湿度、明るさ、匂い、GPS などの位置情報、方角、反応記録、各種センサーなど

これらの視点で収集・記録を行う背景として、人々の想いや目的、歴史、文化、さらには学術研究などの観点も取り入れ、どのように記録・選定・保管するかを考えて実践すべきである。そしてこれら資料（コンテンツ）にメタデータを付けて保管されたデジタルアーカイブを用いて、各コンテンツの相互関係の分析処理を行うことで、課題解決にも繋がる。

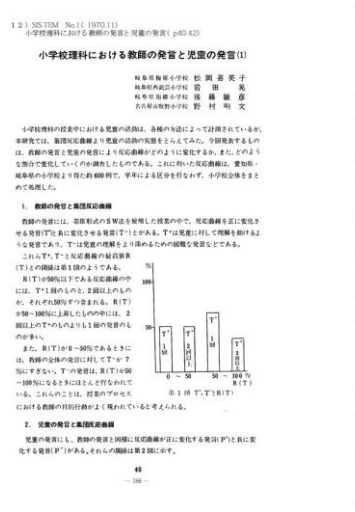
２．各種資料の収集・記録・保管の実践例

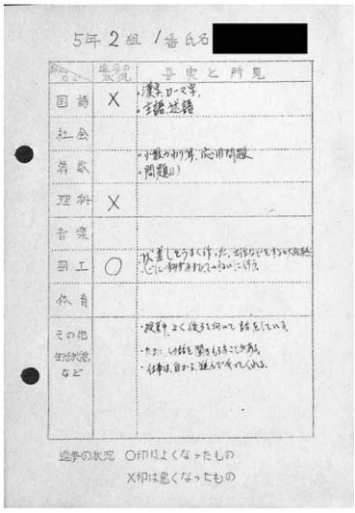
デジタルアーカイブのための各種資料の収集・記録は、企業、観光、研究機関、農業、教育な

ど、広く実施されている。1967 年～1970 年に岩田晃、後藤忠彦らが教育実践で行った事例を次に示す。

（１）文書、メモ、計画書など（主に企業、学校、観光、農業などで実施）

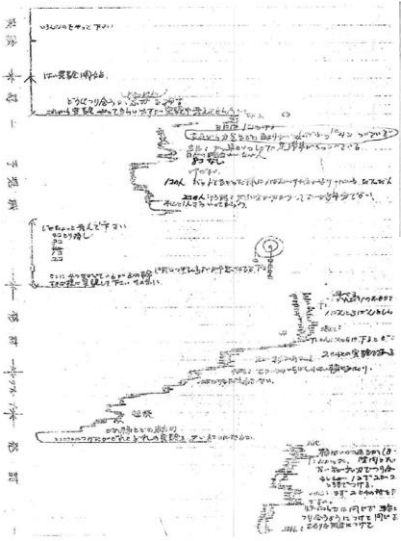
研究資料やメモ、指導案を示す。





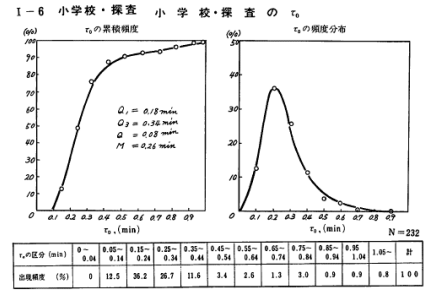
（２）作業・活動のプロセスの記録（主に産業、芸能、農業、経済、教育などで実施）

状況や人々の活動を音や音声、映像で記録し、反応記録などは計測、録音、撮影という手段で記録し、整理・保管される。下に示すのは、授業における学習反応（分かったらスイッチを押す：レスポンスアナライザー）データと音声を同時に記録した事例である。



映像の記録

数値データの
グラフ化



τ_0の区分 (min)	0～0.04	0.05～0.14	0.15～0.24	0.25～0.34	0.35～0.44	0.45～0.54	0.55～0.64	0.65～0.74	0.75～0.84	0.85～0.94	0.95～1.04	1.05～	計
出現頻度 (%)	0	12.5	36.2	26.7	11.6	3.4	2.6	1.3	3.0	0.9	0.9	0.8	100

学習反応と
音声記録（文字化）

（３）数値データ、各種計測データの集計など（加工処理）

各種計測データを分析、集計してグラフ化などを行い管理・流通させる。上図のように学習反応から、発問後に何秒で反応するかを集計しグラフ化を行う。このように各種資料を収集・記録してデジタル化し、共有化のための保管と流通によってデジタルアーカイブが広がり、課題解決に活用されている。それには資料収集は組織的に進められるべきであり、これからデジタルアーカイブに携わる人はこれらの視点を踏まえることで、新しいデータ処理へ発展となるだろう。